

地域と連携したキャリア体験活動の充実に向けた取組について

北海道帯広緑陽高等学校 学級数 12 (校長 楡木 伸司)

□ 実践の概要

この実践は、持続可能な社会の実現に資する担い手の育成に向け、生徒が主体的に取り組み、地域課題や社会問題を解決するアプローチを通して、「課題解決力」や「情報発信力」の育成を図るとともに、生徒自身が当事者意識を持って取り組んだキャリア体験活動から得た学びを「社会人基礎力」の育成につなげる取組である。

1 実践の目的

キャリア体験活動を通じて、生徒自身が自己理解を深めるとともに、自己肯定感を高めながら、職業観を形成し、社会に有益な人材として活躍できるよう、将来のビジョンを明確にしていく。

2 実践内容

(1) 実施計画

本校は、めざす学校像を「社会人基礎力を育む文武両道の進学校」～生徒の人生設計を支援する学校～として掲げ、キャリア体験活動に積極的に取り組んでいる。活動時間は各教科に加え、LHRや総合的な探究の時間を活用して行い、教科・学年・分掌が組織的かつ、系統立てて計画的に取り組んでいる。

(2) 取組の具体

将来的には「緑陽コンソーシアム」の構築を見据えて、中高連携・地域連携・関係機関連携を柱に、キャリア体験活動に係る取組をPDCAサイクルに基づいて推進していく。以下に代表的な取組を示す。

- ア 自己理解と他者理解(Q・U・スタディサポート：1・2年対象) アサーショントレーニング：全校対象)
- イ 緑陽「総探学」(ICTを活用し、ワークシート及びポートフォリオに基づく探究学習の推進：1・2年対象)
- ウ キャリア・セミナー(帯広公共職業安定所からの外部講師招聘：1・2年対象)
- エ 進路別学校説明会(進路の日と称し、毎年開催。道内外から60事業所の参加を得て実施：全校対象)
※全生徒が出前講義2講座受講、学年別での進路講演会、生徒の希望に応じた個別ブース説明等の実施
- オ 社会人基礎力講話及び個別大学説明会(大学・企業等からの外部講師招聘：1・2年対象)
- カ 事前就業体験(各種看護体験や教員養成に係る小中学校現場体験への参加：学年毎に特化して実施)
- キ 管内看護学校トークセッション(管内4校の学生と語らう場の設定：初企画 1・2年対象)
- ク 関係機関との連携事業(地域清掃、こども園による保育体験、消費者被害防止講話等の実施：全校対象)
- ケ 中高連携事業(近隣の南町中学校との生徒及び教員の相互交流を基にした部活動・授業公開連携の推進)
- コ キャンドルナイト(コロナ鎮魂に祈りを捧げるとともに、3年生のエールとして企画：生徒会自主企画)

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

基本的には、各種取組後に生徒も教員も振り返りシートやGoogleフォーム等を活用して、必ず事後に点検・評価に係るアンケートを行い、意見及び反省点を集約するとともに、集約結果を全体に還元し、その内容の周知及び理解・深化を図っている。さらに、それらを踏まえて、教員側は関係部署にて次回の実施に向けて、工夫改善案を検討し、更なる充実を図りながら、計画案を策定していく流れとなっている。

(4) 改善後の取組

キャリア体験活動を通じて、生徒が自己理解に基づき、自己肯定感を高めるとともに、生徒が、主体的に自身の将来について考え抜き、自ら決断し、自己決定していくプロセスを学ばせたい。

教員はファシリテーターとなり、生徒と一緒に歩んでいく伴走者として、生徒自らが自身の適性を踏まえ、多様な体験活動から学び取ったことを記録・整理し、課題解決や自己決定していくことができるよう支援した。材料を見つけ出すアプローチを体験から会得することをねらいとするためである。今後は、生徒が試行錯誤する中で「自身で取り組んでみたいこと」や「自分が目指してみたいこと」を見つけていくことができるよう、生徒への支援体制を整え、一層の充実を努めていく。



【R5進路別学校説明会】

3 実践のポイント

今後も、主体的、積極的に活動する生徒の可能性を大切にしながら、社会人基礎力が示す3つの能力(「前に踏み出す力」・「考え抜く力」・「チームで働く力」)の育成に資する教育活動を推進し、生徒のキャリア形成を支援する。